

「逃げる対策」から「逃げない対策」へ

久田嘉章

工学院大学・建築学部・まちづくり学科 教授

現在、東京に代表される人口稠密な大都市での震災対策は、従来の「逃げる対策」ではなく、「逃げない対策」が求められています。例えば、防災訓練では「避難訓練」を行うことが多いですが、「避難せず、災害に立ち向う訓練」が必要になっています。誤解がないようにしたいのは、決して「逃げるな」と言っている訳ではありません。場所と状況により速やかな避難が必須なのは、2011年（平成23年）東日本大震災での津波や、1923年（大正12年）関東大震災での延焼火災による大勢の犠牲で明らかです。「勝てない敵」が現れたら逃げるが勝ちです。東京では津波の危険性は比較的低いと言われていますが、元禄型関東地震など海溝型巨大地震が発生した場合、東京湾岸には2mを超える津波が襲い、河川を遡上します。湾岸や河川の近くで揺れを感じたら、すぐに高台に避難すべきです。また建物内や木造密集市街地で初期消火に失敗したら、速やかな避難が必要です。一方、東京では差し迫った危険がない場合、周辺の状況が明らかになるまで、その場に留まった方が一般には安全です。特に人口稠密な高層建物や都心部であわてて避難すると、大群衆の中で身動きがとれなくなり、群衆雪崩やパニックなど危険な状況になる可能性があります。また無理に帰宅しようとする、幹線道路を渋滞させるだけでなく、環状7号線沿線などの木造密集市街地での大規模な延焼火災に巻き込まれる危険性もあります。一方、避難場所（広場）や避難所（建物）にたどり着いても、水・食糧・トイレが不足するだけでなく、大勢の人の中で真夏の暑さや真冬の寒さなど大変厳しい環境が待っています。ぜひ一度、避難する必要性の有無や、その場合の危険性、避難先での悲惨な環境などを想像してください。家庭でも職場でも、十分すぎるほどの「逃げない対策」を行って頂きたいと思います。

プロフィール

久田 嘉章（ひさだ よしあき）

工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授

略歴

- 1984（昭和 59） 早稲田大学理工学部建築学科 卒業
1986（ 〃 61） 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻 修了
1989（平成元） 早稲田大学工学部建築学科 研究助手（3年間）
1991（平成 3） 工学博士 早稲田大学
1993（ 〃 5） 南カリフォルニア大学地球科学科 研究助手（2年間）
1995（ 〃 7） 工学院大学建築学科 講師・助教授を経て現在に至る

専門分野：地震工学、地震防災

活動状況：長周期地震動や首都直下地震・活断層等の近傍の強震動特性と建物のソフト・ハード面からの対策、地域連携による減災対策に関する研究を行っている。現在、工学院大学総合研究所・都市減災研究センター長、新宿駅周辺防災対策協議会・副座長、同・西口部会長、新宿区・防災会議委員、東京都・防災会議地震部会 専門委員、内閣府・首都直下地震対策検討ワーキンググループ委員、気象庁・長周期地震動に関する情報検討会委員、文部科学省・地震調査研究推進本部・調査観測計画部会委員、日本建築学会・振動運営委員会・地盤震動小委員主査、日本免震構造協会・入力地震動小委員会主査、など。